

9月県議会（9/21～10/7）高村京子県議の一般質問と答弁を紹介します。
（9月27日）



一人ひとりに寄り添ったパーソナルサポート事業の充実を

自立に向けて行政と社会福祉協議会、市民団体などが連携して就労支援や生活支援の相談に応じる「パーソナルサポートモデル事業」について、高村県議は「拠点を10圏域に増やし（現在は長野・松本・上田に設置）、本当に寄り添い型での支援ができる環境を」と求めました。太田商工労働部長は、「新たな拠点の設置も検討していきたい」と前向きな答弁でした。高村県議は、失業者や生活困窮者のための「生活福祉資金」貸付が返済能力の有無で断られることのないよう改善を求めたほか、「反貧困ネットワーク信州」など民間団体への支援・連携を求めました。

子ども・障がい者の医療費は窓口無料に

現在の福祉医療制度は、いったん窓口で2～3割の医療費を支払い、後日1レセプト500円の手数料が差し引かれて戻ってきます。高村県議は、「お金がなくて子どもの健康や命が守れない長野県であってはならない」として医療費無料の拡大と窓口での無料化を強く求めました。三村健康福祉部長は、「それぞれの自治体が競う形でやってきた」「国の責任で措置されるべき」との冷たい答弁。高村県議は、全国で36の都府県が窓口無料を実施しており、「長野県も困難を乗り越えて子育て応援県になってください」と再度求めました。

信州上田医療センターへの医師確保支援を

来春新築オープンする上田市産院や上小地域特有の救急体制輪番病院の後方支援として、信州上田医療センターのいっそうの充実が切望されています。高村県議は、この時期に県として医師確保の支援を」と求めました。三村健康福祉部長は「しっかり支援したい」と答弁しました。

三才山・新和田・平井寺トンネルの早期無料化を

これまでも繰り返し求めてきた3トンネルの無料化について、高村県議は「少なくとも通勤・通学送迎・医療・介護などでの利用者は無料に」と要望。堀内建設部長は「無料化は実施困難」。ただし「負担軽減の割引方法などを検討していく」と答えました。



質問を終えて……高村京子

15分間で、雇用環境が大変厳しいなかで困窮する人々への支援、命とくらしを守る県政への前進を願い、質問しました。福祉医療窓口無料化は実現されませんでした。前進面もありました。ひきつづき力を合わせましょう。